

<事業名> 「食」と「健康」を考える

団体名	新温泉町えごま研究会
所在地	新温泉町
代表者名	谷口 正友

事業内容	<p>エゴマを含め食用油脂がどのように製造されるかを図と動画で分かり易く説明し、酸化していない食用油脂を摂取することが健康に大切であることを意識づける。</p> <p>日時 令和5年2月23日（祝日・木曜日） 13:30～16:00</p> <p>場所 兵庫県美方郡新温泉町 諸寄基幹集落センター</p> <p>内容 開会挨拶、新温泉町えごま研究会の取組状況 会長 谷口正友 えごまを使った料理及び説明 新温泉町いずみ会 講演 えごま油の上手な暮らしへの取り入れ方 食用油脂製造業 ablabo 蔦木由佳</p>			
	地域	新温泉町		
事業の効果	<p>(1) 団体（組織）内の効果 講演会開催に向けて、組織内の結束力が向上している。今回の講演で、食用油脂の搾油がどのような過程をえて製品化されるかを把握することが出来た。 また、えごま油を含め食用油脂の酸化が健康に悪影響を及ぼすことが理解でき、えごまを酸化させないためには、収穫時での脱穀作業、種の保管方法及び種の洗浄など検討する必要がある。 早速、当研究会では令和5年えごま栽培に向けて新たな手法を取り入れて栽培しようという話し合いがもたれ、試験的栽培の計画を進めている。</p> <p>(2) 地域への波及 一般に市販されているえごま油に比べて、新温泉町えごま研究会が販売するえごま油は高価であり、ほぼ倍の価格のため消費者から敬遠されがちである。 しかし、当研究会のえごま油は酸化防腐剤などを全く加えず純度 100%であり、また栽培地は新温泉町の各山間地域であるため、どうしても手間かかりそのため高価となってしまう。今回の講演を通じて美と健康を考えるならば、多少高価でも良質な油を摂取する必要があることが認識された。</p>			
	事業経過	月 日	実施内容	場 所
	10月5日	役員会議	浜坂多目的集会施設	8人
	11月2日	役員会議	浜坂多目的集会施設	7人
	11月18日	新温泉町いずみ会打合せ	諸寄基幹集落センター	9人
	12月2日	役員会議	諸寄基幹集落センター	4人
	1月11日	役員会議	浜坂多目的集会施設	7人
	2月17日	役員会議	諸寄基幹集落センター	8人
	2月23日	セミナー開催	諸寄基幹集落センター	40人

協働の相手	<p>今回の講演で講師を務めていただいた食用油脂製造業 ablabo の蔦木由佳は、健康を考える上で食用油脂は出来るだけ酸化をさせてはならないという信念を持ち合わせている。</p> <p>この食用油脂製造業 ablabo は兵庫県丹波市に位置しており、当研究会から車で2時間の距離であるため比較的容易にエゴマを届けることができる。したがって、当研究会で生産するエゴマを ablabo で搾油していただければ、酸化度合の低い良質のエゴマ油が製品化されることが期待される。</p>
今後の課題等	<p>(1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等</p> <p>当組織を継続していくためには、えごま商品の売上による運営費の確保が重要となる。当組織の会長と事務局長はそれぞれ農事組合法人の理事長と農林水産物卸売業の代表取締役である。それゆえに、会長と事務局長が中心となってえごま商品の販売促進を担っている。</p> <p>今後においては、良質なえごま油は健康に重要であるということを消費者に認識していただくことが課題であり、販売促進に向けて役員一同検討中である。</p> <p>(2) 地域活動を拡大していくための工夫等</p> <p>今年度までは、えごま栽培を会員個人がそれぞれの小規模の圃場で行っていた。この小規模栽培では、手間が多くかかり収穫時には体力的にもきつく高齢の栽培者の中にはえごま栽培を止める者も出始めている。</p> <p>そこで、地域活動を拡大していくため、令和5年度に向けて栽培条件が良い17aの圃場を確保し、ここで機械化によるえごま栽培を試験的にを行い労力及び経費の削減に結びつけることが出来るかを検証する。</p>



5年2月23日 開会あいさつ



5年2月23日 えごま料理説明



5年2月23日 講演風景



5年2月23日 ablabo 蔦木由佳氏